

 SHIMADZU



株式会社島津製作所(東証プライム市場：証券コード7701)

2025年3月期 中間期決算説明会

代表取締役社長 CEO 山本靖則 | 2024年11月8日

※本会議の内容に関しては、現時点の予測に基づく将来の見通しを述べる場合がございますが、これらは全てリスク並びに不確実性を伴っております。実際の結果が見通しと異なる場合があることをあらかじめご了承ください。

中期経営計画：当社の目指す姿

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

- 新型コロナウイルスとの闘いを通して、「人の命と健康」への意識が高まる
- サステナビリティへの関心が高まり、「地球の健康」が重要な社会課題に



SHIMADZU

Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved. | 2025年3月期中間期決算説明会

2

本日は、お忙しい中、弊社上期決算説明会にご参加いただき誠にありがとうございます。
それでは説明させていただきます。

今上期の世界情勢は、ロシアによるウクライナ侵攻、あるいは中東紛争等、地政学リスクが継続し、加えて中国経済の停滞や、世界的なインフレによるコスト増もあり、不透明な状況が継続しました。

また、今年は欧米をはじめ世界各地で選挙が行われて、政権交代が今後どう影響してくるのかも気になるところです。

コロナ禍を経て、世界的に健康への関心の高まりに加え、高齢化も進んでいます。世界各国で人の命と健康に関する様々な研究開発が進み、その成果が社会実装されていくと考えています。

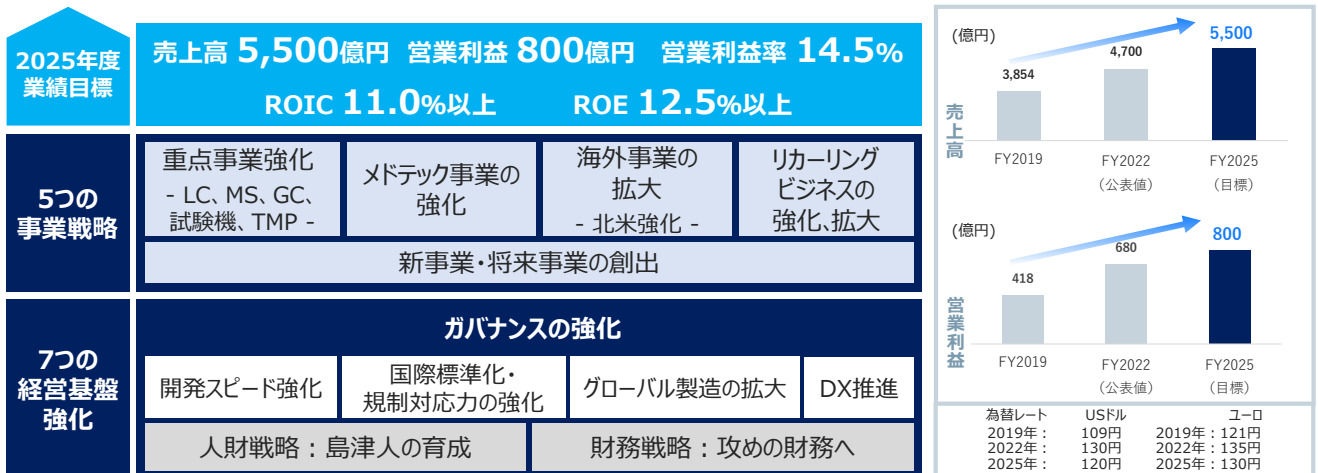
また、身近に感じるようになってきた地球の温暖化の進行により、カーボンニュートラルに対する意識が高まっています。

このような状況の下、中期経営計画で定めた4つの領域で事業を展開し目標達成にむけて取り組みを進めています。

中期経営計画 基本方針

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

コンセプト： 世界のパートナーと共に社会課題を解決するイノベティブカンパニーへ
～技術開発力と社会実装力の両輪強化により持続的成長を果たす～



SHIMADZU

Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved. | 2025年3月期中間期決算説明会

3

中計では、重点事業強化、メドテック事業の強化等の5つの事業戦略を掲げ、この戦略に従って事業を進めております。

重点事業強化では、液体クロマトグラフ（LC）、質量分析システム（MS）、ガスクロマトグラフ（GC）をはじめとする主力製品について、新製品を投入しながら、事業を拡大していきます。

メドテック事業の強化は、臨床検査と医療用X線画像の二つの分野で進めています。臨床検査では、自動化、試薬やソフトウェアなどを、M&Aも含めて強化しています。X線画像装置では、新製品の上市とともに、リカーリング事業の強化を図ります。

また、海外事業の拡大では、北米にR&Dセンターを設立し、メキシコに販売拠点を新たに設けるなど取り組みを進めています。

上期業績 増収減益

- ・ **トップライン(受注・売上)は順調に増加 ・成長投資を継続**
- ・【売上高】 **2,512億円(前期比+5%)** : 4期連続で過去最高
- ・【受注高】 **2,680億円(前期比+8%)** : 過去最高を2期ぶりに更新
- ・【営業利益】 **302億円(前期比▲7%)** : 成長投資などにより減益

2Q(7-9月) 増収増益

- ・ **成長投資に付加価値訴求がキャッチアップ**
- ・【売上高】 **1,343億円(前期比+3%)** : 4期連続で過去最高
- ・【受注高】 **1,300億円(前期比+4%)** : 過去最高を2期ぶりに更新
- ・【営業利益】 **193億円(前期比+0%)** : 成長投資を付加価値訴求で補う

通期目標 増収増益

- ・ **受注の早期売上を実現し営業利益も過去最高をめざす**
- ・【下期期頭受注残高】2,460億円 : 2024年3月末から250億円増加
- ・【売上高】 **5,400億円(前期比 +5%)** : 受注残の早期売上と生産増で増収
- ・【営業利益】 **760億円(前期比 +4%)** : 増収と製造収支改善で増益に

それでは、上期の業績のハイライトです。

売上高は前年同期比プラス5%の2,512億円、4期連続で過去最高を更新。

受注高も前期比8%増の2,680億円となり、2期ぶりに過去最高を更新しました。

営業利益は成長投資などにより前期比7%減の302億円でした。

成長投資については、当社の将来のために、今後も継続的に投資していきたいと考えています。

第2四半期だけ見ますと、営業利益は成長投資の増加分を付加価値訴求が補い、前年同期比微増の193億円でした。

通期では売上高5,400億円、営業利益760億円を目標にしております。

受注残は3月末から約250億円増え、約2,460億円となりました。

受注残からの早期売上転化に加え、新規受注から売上の早期化を図ることで、売上高目標を達成していきたいと考えております。

01 決算概要

業績サマリー

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

	単位：億円	中間期(4月-9月)		前年同期比	
		FY2023	FY2024	増減額	増減率
業績	売上高	2,395	2,512	+117	+4.9% (除中国：+9.1%)
	営業利益	325	302	▲23	▲7.0%
	営業利益率	13.6%	12.0%	▲1.5pt	
	経常利益	359	284	▲74	▲20.8%
	親会社株主に帰属する当期純利益	266	213	▲52	▲19.7%
為替	平均為替レート：米ドル（円）	141.03	152.68	+11.65	+8.3%
	ユーロ（円）	153.43	165.98	+12.55	+8.2%
	研究開発費	102	135	+32	+32%
	設備投資額	121	111	▲10	▲8%
	減価償却費	92	97	+5	+5%

為替影響額

（売上高、営業利益は平均為替レートで、営業外損益は期末レートで計上）

売上高： +109億円 営業利益： +38億円

経常利益・純利益：

営業外損益 ▲50億円

FY2023中間：為替差益+26億円（期末レート：3月末・1ドル134円→9月末・150円）
FY2024中間：為替差損▲24億円（期末レート：3月末・1ドル151円→9月末・143円）



*記載の数値は億円未満を四捨五入した数値となっており、
表記上の合計値、差額と合わない場合があります。

Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved. | 2025年3月期中間期決算説明会

6

業績のサマリーをご説明します。

売上高は2,512億円、前年同期比117億円増、4.9%の増加でした。

中国を除いて他の地域では9.1%の伸びとなりました。

なお、為替の押し上げ効果が109億円。為替の影響を除いて前年同期比8億円増でした。

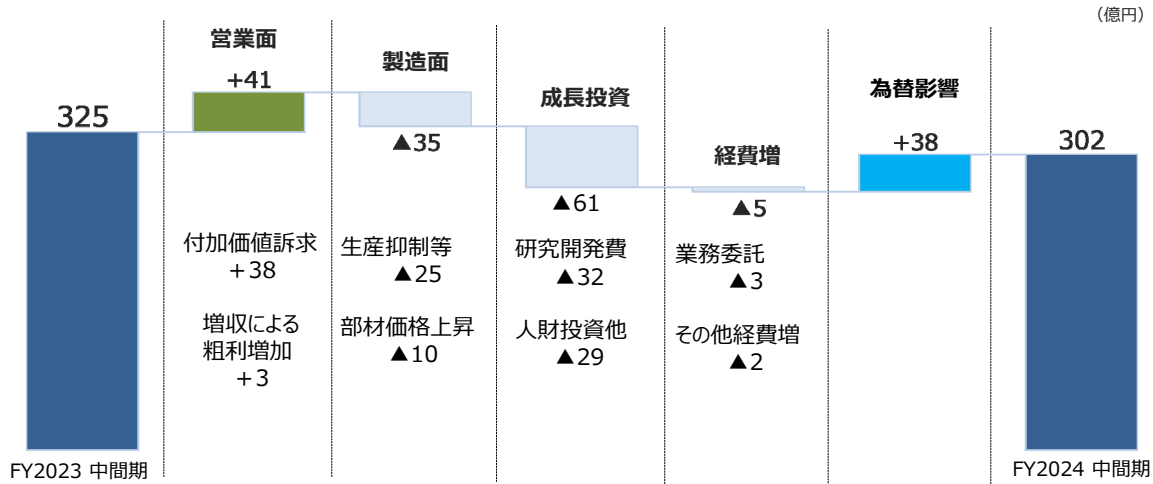
営業利益は302億円で、前年同期比23億円減となりました。

為替の押し上げ効果が38億円であり、為替影響を除くと前年同期比約60億円の減となりました。

経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益は、前年同期比74億円、52億円減となりました。営業外損益は期末レートで計上するため、前年と比較して為替差損が発生し、経常利益や当期純利益の前年同期比増減が営業利益よりも大きくなっています。

連結／営業利益増減要因（4-9月）

■ 営業面	: 付加価値訴求による粗利増	+41億円
■ 製造面	: 部材価格上昇、工場収支影響など	▲35億円
■ 成長投資	: 研究開発費、人的投資、M&A、DXなどの成長投資	▲61億円



* 記載の数値は億円未満を四捨五入した数値となっており、表記上の合計値、差額と合わない場合があります。

Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved. | 2025年3月期中間期決算説明会

7

続きまして、上期営業利益の増減要因についてご説明します。

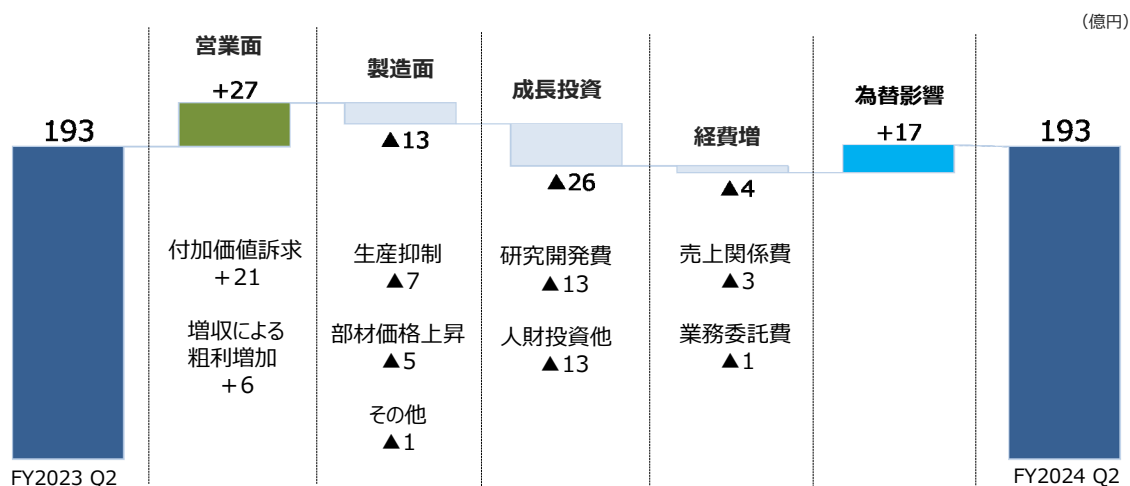
営業面では、付加価値訴求の努力によりお客様に価値を認めていただき、41億円増えました。

製造面では、部材価格の上昇に加え、上期の中国市況悪化の影響を受け、生産抑制を行ったことにより35億円の減少となりました。

成長投資は、研究開発が32億円、人的投資などが29億円で計61億円。
為替影響分38億円を受け、最終的に営業利益は302億円となりました。

連結／営業利益増減要因（7-9月）

■ 営業面	: 増収及び付加価値訴求による粗利増	+27億円
■ 製造面	: 部材価格上昇、工場収支影響など	▲13億円
■ 成長投資	: 研究開発費、人的投資、M&A、DXなどの成長投資	▲26億円



第2四半期については、営業面は27億円増加し、製造面は13億円減となりました。

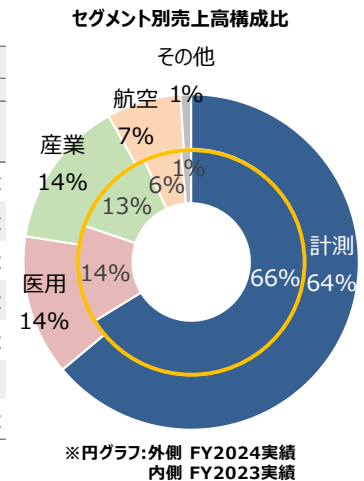
成長投資は26億円、為替影響は17億円で、第2四半期の着地は193億円となり、前年同期比微増となりました。様々な成長投資を進めながらも、増益を達成することができました。

セグメント別損益

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

- 売上高は、**計測、産業、航空機器事業が過去最高**。医用も増加。
- 産業、航空機器事業の業績が全社を牽引
- 構成比は計測64%、医用14%、産業14%、航空7%。計測が減少し、航空・産業が増加

単位 億円	売上高			営業利益				
	FY2024 中間期	前年同期比		FY2024 中間期	前年同期比		FY2024 中間期	前年同期比
		増減額	増減率		増減額	増減率		増減
計測機器	1,606	+19	+1%	213	▲53	▲20%	13.3%	▲3.5pt
医用機器	340	+6	+2%	16	▲0	▲2%	4.7%	▲0.2pt
産業機器	360	+51	+16%	53	+20	+60%	14.7%	+4.0pt
航空機器	180	+50	+39%	24	+11	+84%	13.3%	+3.3pt
その他	26	▲8	▲24%	2	▲3	▲62%	4.1%	▲4.6pt
調整額	-	-	-	▲5	+2	-	-	-
合計	2,512	+117	+5%	302	▲23	▲7%	12.0%	▲1.5pt



続きましてセグメント別損益についてご説明します。

売上高は計測、産業、航空が過去最高でした。

売上高は前年同期比5%伸びました。中国市況悪化の影響を受け計測が1%増と、伸び幅が小さかったものの、産業、航空が伸びました。

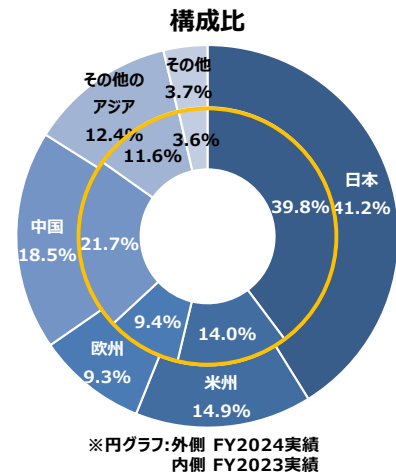
その結果、計測の売上高比率が2ポイント減り、64%となりました。
一方、航空、産業の売上高比率が少し増えております。

連結／地域別売上高

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

- 売上高：中国を除く地域で、増収。特に、米州、インド、日本が牽引。中国の構成比▲3.2pt減少
- 米州：液体クロマトグラフ、質量分析システム、ターボ分子ポンプ、医用X線装置が増加
- 海外売上高比率：58.8%（前年同期比▲1.4pt）

単位 億円	売上高				構成比	
	FY2023 中間期	FY2024 中間期	前年同期比		FY2023 中間期	FY2024 中間期
			増減額	増減率		
日本	952	1,034	+82	+8.6%	39.8%	41.2%
海外	1,443	1,478	+35	+2.5%	60.2%	58.8%
米州	335	375	+39	+11.7%	14.0%	14.9%
欧州	224	233	+9	+4.1%	9.4%	9.3%
中国	519	466	▲53	▲10.3%	21.7%	18.5%
その他のアジア	277	311	+34	+12.2%	11.6%	12.4%
その他	87	93	+6	+7.1%	3.6%	3.7%



続きまして地域別売上高です。

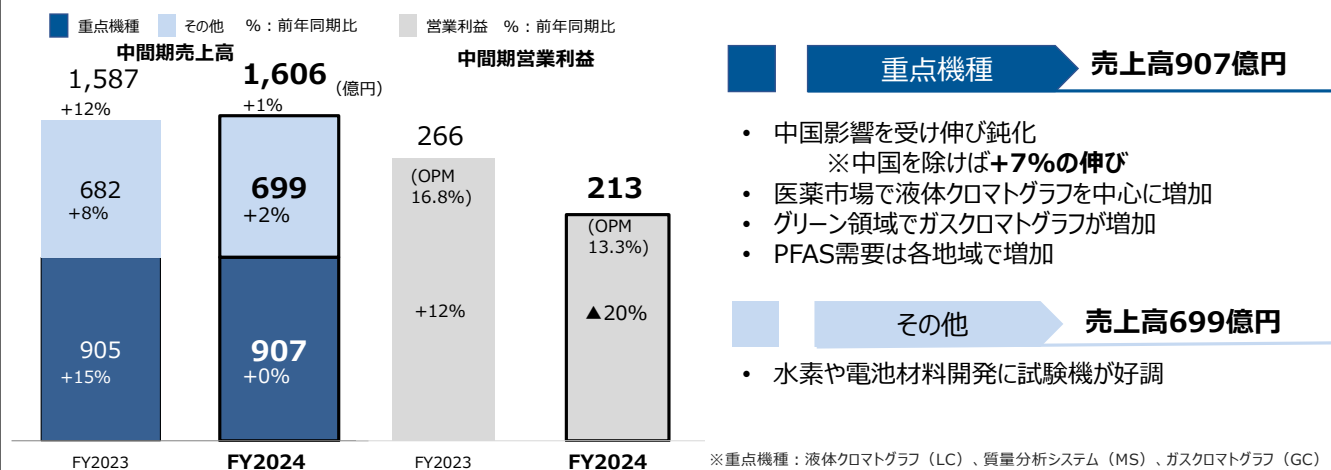
中国だけが減少しており、10.3%マイナスです。他の地域は増加しました。中国の減少分を、日本、米州、その他のアジア（特にインド）がカバーし、中国の売上高比率は3.2ポイント落ち、18.5%となりました。

この結果、海外の売上高比率は、前年同期比1.4ポイント減り58.8%となりました。

計測機器／売上高・営業利益

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

- **増収減益**：中国の売上減少を日本、インドを中心に他地域でカバーし増収に
- **売上高**：売上高1,606億円（前年同期比+1%）、重点機種、その他機種ともに増収、**過去最高を更新**
- **営業利益**：営業利益213億円（▲53億円▲20%）成長投資増、生産抑制により減益



続きまして、計測機器です。売上高は1,606億円で、前年同期比1%増となりました。

液体クロマトグラフ（LC）と質量分析システム（MS）とガスクロマトグラフ（GC）の重点機種では売上高907億円と、前年同期比ほぼ横ばいの0.2%増となりました。特に、重点機種は中国の事業の影響を受け、伸びが鈍化しましたが、中国以外の地域でカバーしました。中国を除けば、重点機種の伸びは7%でした。

グリーン領域では新エネルギー分析用のガスクロマトグラフやPFAS需要が各地で増加しております。

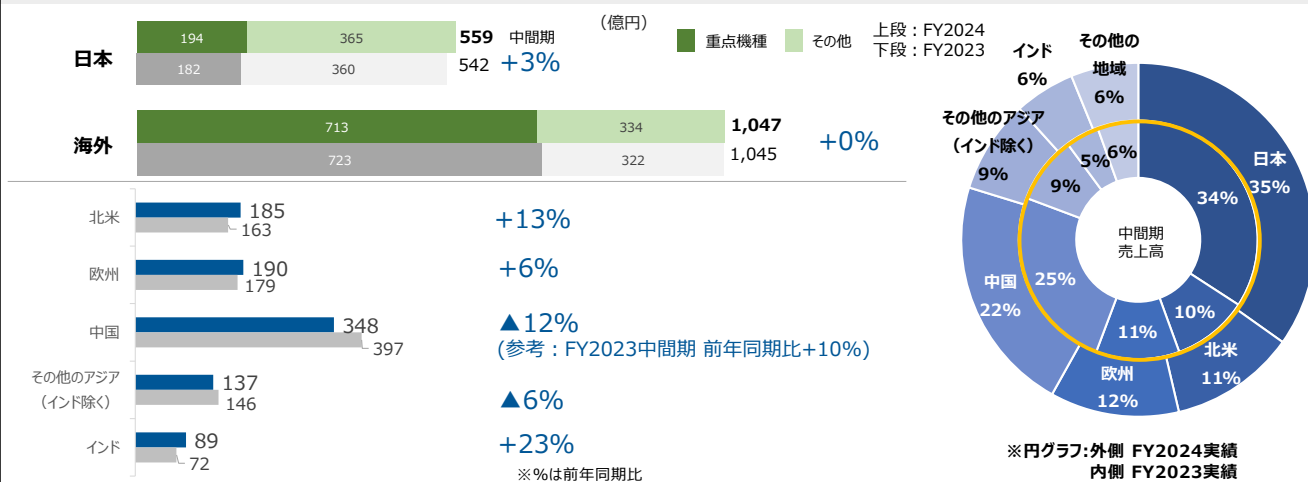
その他機種の中で、電池材料の開発に使われる試験機が好調に推移し、売上高が前年同期比2%増となりました。

営業利益は213億円。成長投資の増加に加え、生産抑制により前年同期比53億円減となりました。

計測機器／地域別売上高

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

- 中国が大幅減のため1.2%の増収にとどまる。中国を除くと5.6%の増収
- 海外売上高比率が0.6pt低下し65.2%。中国比率は3.3pt低下し21.7%
- 日本：559億円で+3%成長 海外：1,047億円で+0.2%増 北米、インドの増加で中国をカバー



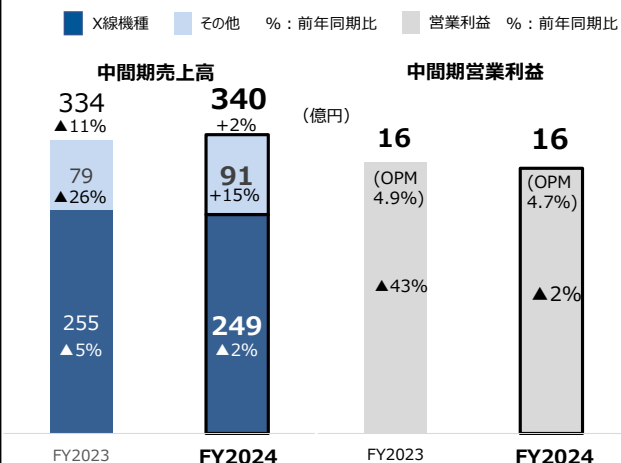
地域別では、中国が12%減、インドを除くその他のアジアが6%減となりました。一方、インド、北米が業績を牽引し連結で前年同期比1.2%増加となりました。中国を除くと、5.6%増加となります。

海外の売上高比率は0.6ポイント低下して65.2%となり、中国の売上高比率が3.3ポイント低下しました。

医用機器／売上高・営業利益

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

- 増収減益：売上高340億円（前年同期+6億円+2%）、営業利益16億円（前年同期横ばい▲0億円・▲2%）
- 売上高：血管撮影システム、乳房・頭部専用TOF-PET “BresTome” が増加
- 営業利益：成長投資増により横ばい



X線機種

売上高249億円

- ・ 一般撮影、X線TV：日本、中国が市況の回復遅れで減少
- ・ 血管撮影システム：低被ばくで高画質が評価され+12%

その他

売上高91億円

- ・ 乳房・頭部専用TOF-PET “BresTome” が増加

続きまして医用機器です。

売上高は340億円で、前年同期比で2%増となりました。
日本と中国の市況回復が遅れましたが、北米とその他のアジアで補い2%の成長となりました。

営業利益は16億円で、前年同期比横ばいとなっております。

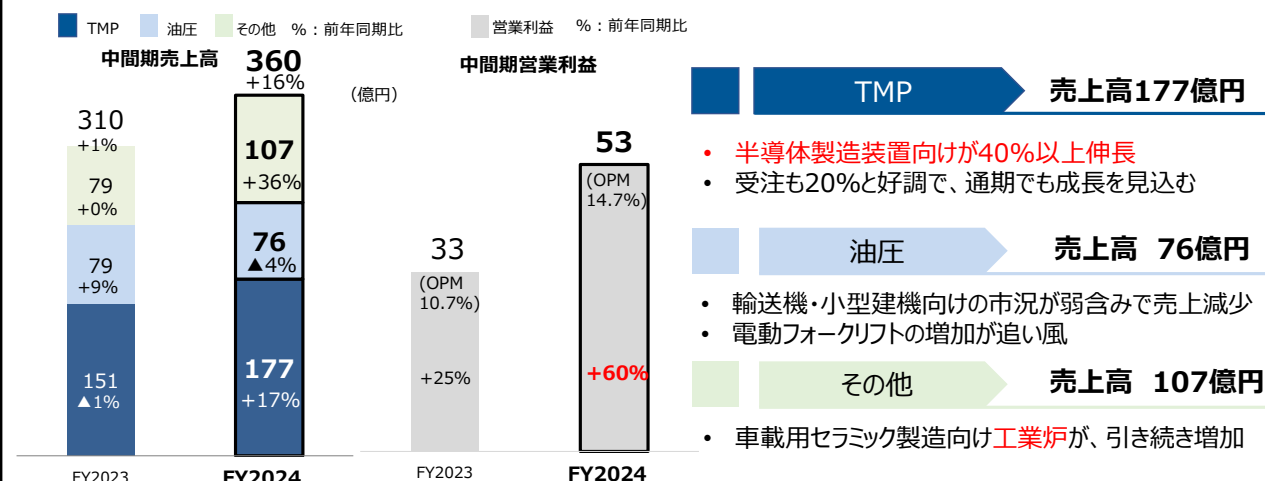
今後期待される新製品として、血管撮影システム向けに音声認識機能を開発しました。
検査効率が向上し、医療従事者の負担が軽減されるということで期待しています。

乳房・頭部の検査に特化したTOF-PETは、アルツハイマー型認知症向けに、頭部用としてPRを強化しています。アメリカでも当局の市販許可が取れましたので、アメリカ市場で展開していきます。

加えて、アルツハイマー型認知症に関わるタウの測定についても共同研究を進めています。

産業機器／売上高・営業利益

- **増収増益**：売上高360億円（前年同期比+51億円+16%）、営業利益53億円（+20億円+60%） **過去最高**
- **売上高**：TMP（+25億円+17%）、その他事業（+28億円+36%）が牽引し大幅増収
- **営業利益**：増収効果に加え、粗利率改善により大幅増益



SHIMADZU

※FY2024Q1より、従来「航空機器」に含まれていた海洋関連機器の業績を「産業機器」へ移管。
FY2024、FY2023の数値、ならびにFY2024/FY2023前年同期比を変更後のセグメント
区分に組み替え。

Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved. | 2025年3月期中間期決算説明会

14

続きまして、産業機器です。

売上高は360億円で、前年同期比16%増となりました。
営業利益は53億円で、前年同期比60%増となりました。

営業利益14.7%とありますが、これは上半期では過去最高であり、計測よりも高い数字になったところは特筆すべきところです。

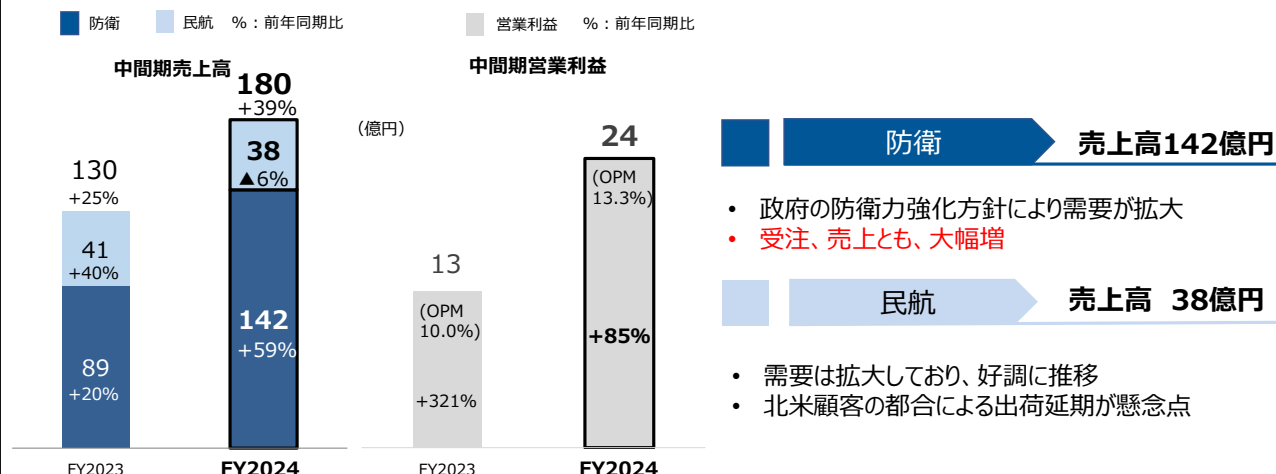
好調の要因はターボ分子ポンプが半導体製造装置向けに40%以上伸びたことです。
受注も20%増と好調で、中期的にも成長を期待できます。

その他事業では、売上高が107億円で、前年同期比36%増となりました。
特に工業炉が、車載用のセラミックの部品向けに好調であり、大きく伸びました。

油圧機器は輸送機・小型建機向けの市況が弱含んで売上が減少しました。
一方、電動フォークリフトの増加に伴い、静音性に優れた当社の油圧機器に追い風になるものと期待しています。

航空機器／売上高・営業利益

- **増収増益**：売上高180億円（前年同期比+50億円+39%）、営業利益24億円（+11億円+85%）**過去最高**
- **売上高**：**防衛向け大幅増加**（+53億円+59%）、民間航空向け減少（▲3億円▲6%）
- **営業利益**：増収効果に加え、粗利率改善により大幅増益



SHIMADZU

※FY2024Q1より、従来「航空機器」に含まれていた海洋関連機器の業績を「産業機器」へ移管。
FY2024、FY2023の数値、ならびにFY2024/FY2023前年同期比を変更後のセグメント区分に組み替え。

Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved. | 2025年3月期中間決算説明会

15

続きまして航空機器です。

売上高は180億円で、前年同期比39%増となりました。
営業利益は24億円で、前年同期比85%増となりました。
売上高、営業利益共に過去最高を更新しました。

防衛分野は政府の防衛強化方針による需要増で受注、売上ともに大幅に増加しました。

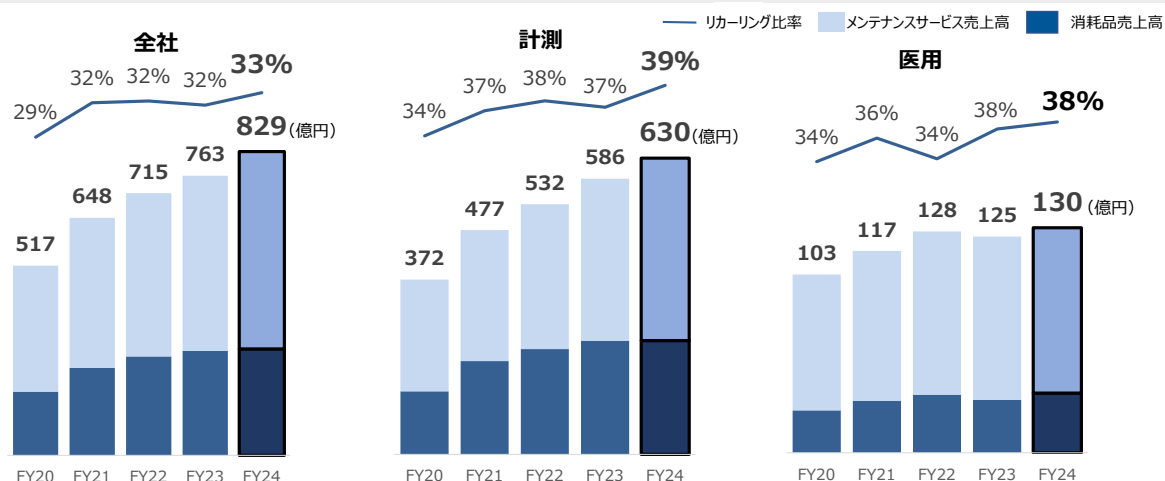
民航も需要は拡大していますが、北米顧客の都合で出荷が延期となり、売上がやや減少しました。しかしながら、北米顧客の課題も解決しましたので、今後の増加に期待しています。

リカーリング売上高・比率

【全社】売上高829億円：計測が牽引し増加

【計測】売上高630億円：M&Aなどにより消耗品が順調に増加。2024年7月から米国Zef社連結効果でメンテナンス増

【医用】売上高130億円：中国でメンテナンスサービス減少、日本は順調に増加



続きましてリカーリング売上高です。

全社のリカーリング売上高は829億円になり、リカーリング比率は33%でした。

計測のリカーリング比率を将来的に50%まで上げたいと考えており、今中計では43%を目標にしています。上期は米国のサービス会社を買収し、メンテナンスサービスを強化したことで、リカーリング比率が39%になりました。

医用のリカーリング売上高は伸びましたが、リカーリング比率は前年と変わらず38%でした。

02 2024年度通期業績予想

2024年度通期業績予想

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

- 全ての項目で5期連続で過去最高を更新する計画
- 期初予想から売上高を150億円上方修正
- 将来につながる成長投資を継続：研究開発費65億円増 人財投資80億円増

売上高	5,400 億円	前年同期比	+5 %
営業利益	760 億円	前年同期比	+4 %
経常利益	770 億円	前年同期比	+0 %
当期純利益	580 億円	前年同期比	+2 %

下期為替レート	為替感応度	研究開発費	設備投資	減価償却
		前年同期比	前年同期比	前年同期比
米ドル：145円 ユーロ：155円	米ドル ユーロ 売上高：15億円 営業利益：5億円	3億円 1億円 280億円 +65億円	280億円 +55億円	200億円 +14億円

SHIMADZU

Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved. | 2025年3月期中間期決算説明会

18

続きまして通期業績予想です。

売上高5,400億円、営業利益760億円、経常利益770億円、当期純利益580億円です。
5月公表値からは、売上高を150億円上方修正しています。

利益面では成長投資を前年から増やしたこともあり、営業利益は760億円と据え置いています。
通期の成長投資は、前年から研究開発費で65億円、人財投資で80億円程度増やす予定です。

2024年度通期セグメント別業績予想

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

- 主要4セグメントで増収増益の計画
- 計測：製薬・臨床・グリーンなどの好調な地域・市場での拡大、生産拡大、付加価値訴求、固定費抑制
- 医用：X線機種新製品と血管撮影システムの拡販とアフターサービス強化
- 産業：半導体向けTMPの拡販
- 航空：防衛向け受注残の早期売上と、民間向け価格転嫁

単位: 億円	売上高					営業利益					営業利益率			
	FY2023	FY2024 期初予想	FY2024 新予想	増減額	増減率	FY2023	FY2024 期初予想	FY2024 新予想	増減額	増減率	FY2023	FY2024 期初予想	FY2024 新予想	前期比 増減
計測機器	3,383	3,420	3,480	+97	+3%	575	600	580	+5	+1%	17.0%	17.5%	16.7%	▲0.3pt
医用機器	723	760	760	+37	+5%	48	60	55	+7	+15%	6.6%	7.9%	7.2%	+0.6pt
産業機器	661	680	720	+59	+9%	74	80	95	+21	+29%	11.2%	11.8%	13.2%	+2.0pt
航空機器	287	350	380	+93	+32%	35	30	38	+3	+9%	12.2%	8.6%	10.0%	▲2.2pt
その他	65	40	60	▲5	▲8%	10	15	10	▲0	▲4%	11.4%	23.1%	11.8%	+0.4pt
調整額	-	-	-	-	-	▲15	▲25	▲18	▲3	-	-	-	-	-
合計	5,119	5,250	5,400	+281	+5%	728	760	760	+32	+4%	14.2%	14.5%	14.1%	▲0.1pt



※FY2024Q1より、従来「航空機器」に含まれていた海洋関連機器の業績を「産業機器」へ移管。
FY2024、FY2023の数値、ならびにFY2024/FY2023前年同期比を変更後のセグメント区分に組み替え。

Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved. | 2025年3月期中間期決算説明会

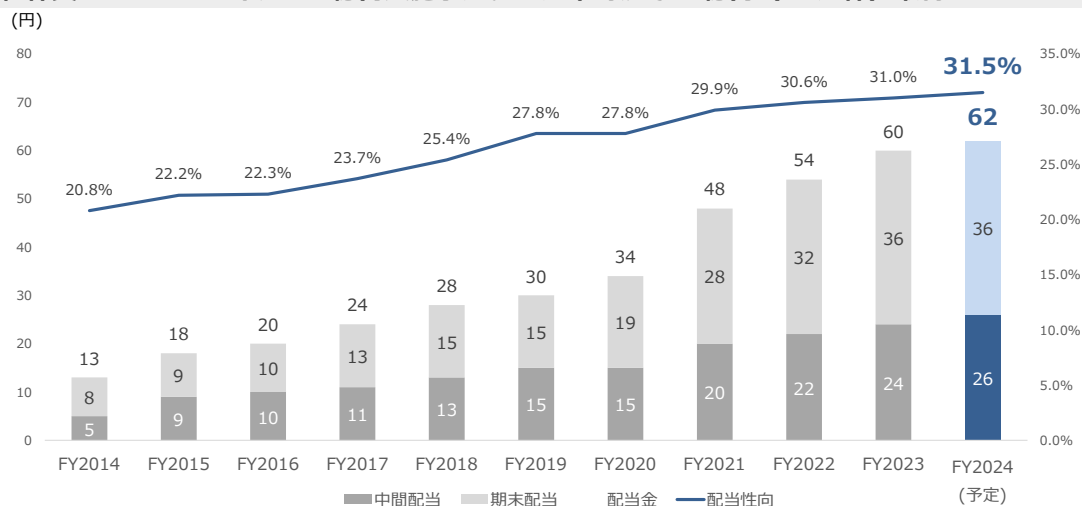
19

セグメント別では4セグメント全て増収増益を計画しております。

株主還元

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

- **中間配当** : 前年同期2円増配の26円
- **年間配当** : 62円と11期連続増配を予定
- **自社株買い** : FY2024中に250億円実施予定。10月末時点で33億円（68万株）取得



続きまして株主還元です。

中間配当は、前年24円から2円増配の26円を予定しています。

上期は減益となりましたが、財務は極めて健全であることに加え、株主の方に感謝の意を表して、中間配当を増配しました。中間と期末で生じていた配当の差を少なくしたいという思いもあります。

この結果、年間配当は62円となり、11期連続で増配を予定しております。

また、自己株買いに関しては、今年度中に250億円実施する予定です。
現時点で33億円、68万株の取得を終えております。

03 トピックス

- ・計測中国の見通し
- ・ヘルスケア領域
 - 1) 製薬市場への取り組み
 - 2) 臨床分野への取り組み
- ・グリーン&マテリアル領域
- ・高度専門人財の育成

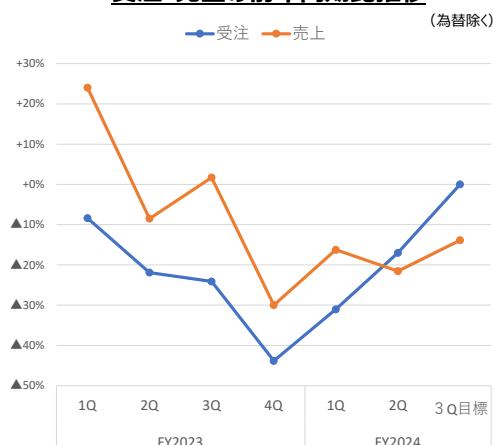
計測中国の見通し

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

- 製薬以外で環境、臨床、食品安全など幅広い市場で事業機会をとらえる
- 受注はFY2023 4Qを底に回復傾向。FY2024 3Qから受注の前年比プラスを見込む
- 『大規模な設備更新と消費財の買い替えを推進する行動計画』によりアカデミア、官需（税関）を中心に案件が増加
- ヘルスケア領域では薬典改定、グリーン領域では新汚染物質規制強化で需要増を期待

政府支援策 (大規模な設備更新と消費財の買い替えを推進する行動計画)	・ 今期受注目標30MUSD - 2Qは施行遅れで入札遅延 - アカデミアに加え、税関でも案件増加
ヘルスケア/製薬 FY2025 薬典改訂	・ FY2024 4Qから業績貢献を見込 - 追加成分の分析メソッド、ソリューションの早期開発と説明展開強化
グリーン	・ 新汚染物質管理行動計画による分析用途向け装置拡販 ・ 水素プロジェクト、EV・リチウム電池市場向けに、GCや試験機などの展開拡大
現地生産強化	・ 国産優遇に対応するため、LC,MSのハイエンド機生産を拡大

受注・売上の前年同期比推移



SHIMADZU

Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved. | 2025年3月期中間期決算説明会

22

計測中国の見通しについてお話しします。

中国の受注の動きをスライドの右のグラフの青線で示しています。

受注の対前年増減率は2023年度の第4四半期から徐々に回復しており、第3四半期で前年同期比プラスまで戻したいと考えています。回復に向けて4つの策があります。

1つ目は大規模な設備更新と消費財の買い替えを推進する政府支援策です。これは2024年3月に発表され、対象投資期間は2024～2027年の4年間で、総投資規模は100兆円です。当初の計画から少し入札が遅れており、受注計上のピークは第3四半期、第4四半期を想定しています。また12月までに据付完了を条件とする案件もあり、案件獲得に向けた取り組みを進めています。今年度の対象案件は、分析計測関係で1,500件、医用関係で約200件となっており、3,000万米ドルの受注獲得を目指しています。

2つ目は2025年度薬典改定に向けた取り組みです。漢方薬やバイオ医薬品の規制に対応したアプリケーションを準備し、需要を取り込みます。

3つ目はグリーン領域に向けた取り組みです。新汚染物質管理行動計画が発表され、PFASなどの汚染物質の分析需要が期待されます。環境モニタリングで使用されるLCMSやGCMSのアプリケーション開発、デモ機の貸し出しなど、水素やリチウムイオン電池といった新エネルギー市場に向けても取り組みを進めています。

従来から、中国事業は製薬向けが占める割合が大きいです。製薬以外も強化し、中国事業を拡大していきたいと考えています。

4つ目は中国の国産優遇に対応するために現地生産強化を進めます。LCやMSのハイエンド製品を中心に技術流出に留意しながら現地生産を拡大します。

主な施策/ヘルスケア（ライフサイエンス、メドテック）

- ライフサイエンス : LC, LCMSを中心に地域・市場に応じた施策展開
- メドテック : 臨床:検査会社のR&D部門攻略、試薬キット拡大、自動化の推進、OEM供給拡大
X線画像診断: グローバルに保守サービス拡大、血管撮影システム（CVS）拡販

主な施策/グリーン、マテリアル、インダストリー

- グリーン : 米ARC社から買収した技術を用い、新エネルギー向けにGCを拡販。PFAS用LCMS拡販
- マテリアル : 新素材、電池検査向け試験機拡販及び自動化の推進。セラミックス向け工業炉拡販
- インダストリー : 半導体製造装置向けTMP拡販、TMPメンテナンス拡販

続きまして、ヘルスケア、グリーン、マテリアル、インダストリー領域の施策についてお話しします。

ヘルスケア領域のうち、ライフサイエンス分野ではLCとLCMSを中心に、各地域、各市場に応じて施策を展開します。

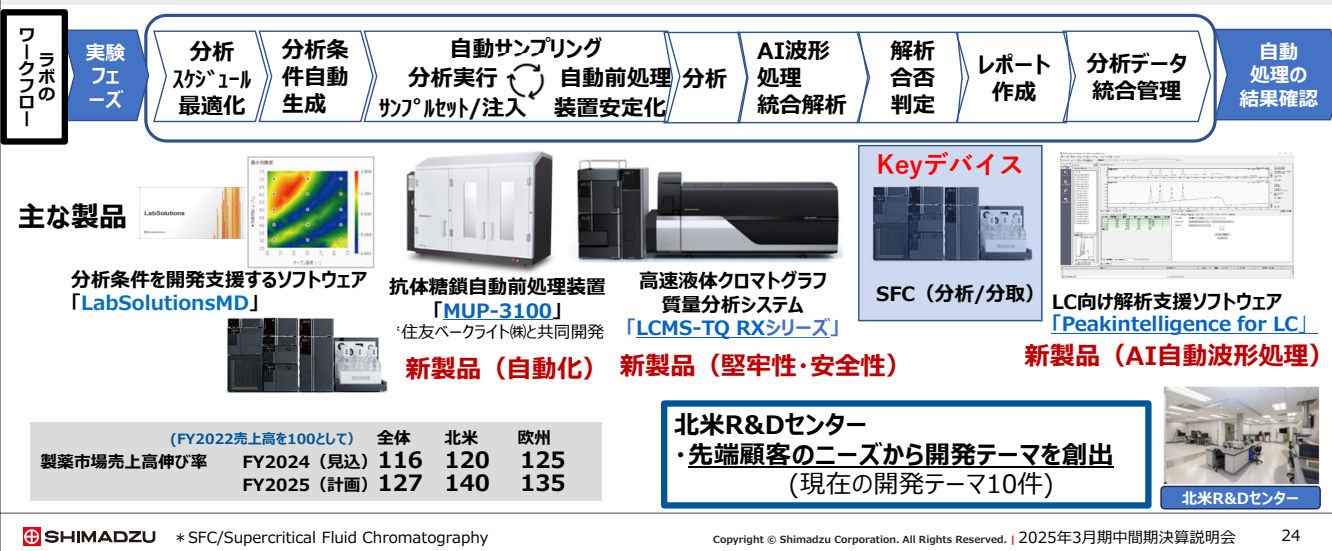
メドテック領域では、臨床分野で検査会社のR&D部門への拡販、試薬キット拡大、自動化の推進などを行います。

グリーン領域は新エネルギー向けのGC、マテリアル領域は電池検査や車の軽量化に向けた新素材開発用試験機、セラミックス向けの工業炉、インダストリー領域は半導体製造装置向けTMPを拡販します。

ヘルスケア領域 製薬分野の深耕

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

- 製薬分野への前処理、分析、データ解析、データ管理までのトータルソリューションを提供
- 競争力のある超臨界流体クロマトグラフ/SFCなどで欧米メガファーマの創薬部門を攻略
- 北米R&Dセンターを通じて最先端の顧客と共同開発



製薬分野でラボのワークフロー全体で、お客様に必要なトータルソリューションを提供します。

製品としては、前処理を自動化する装置、分析を高速化、安定化させる装置、AIを活用したデータ解析など、ラインナップを強化しています。

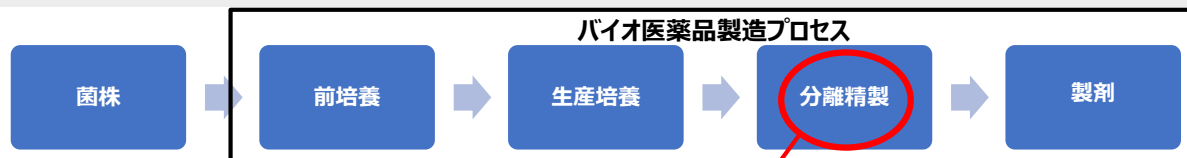
競争力の高い超臨界流体クロマトグラフ（SFC）をキーデバイスとして欧米のメガファーマの創薬部門の攻略を進めています。既に大手製薬6社で複数台導入いただいております。そこを突破口にして、北米R&Dセンターがお客様の最先端ニーズを捉え、新製品を開発していきます。

米国の分析機器メンテナンス・サービス会社のZef Scientific Inc.を買収し、当社の製品だけではなく他社製品のアフターサービスもはじめました。これにより、お客様との関係を密にし、新しい製品やサービスを提供したいと考えています。

製薬市場向けの売上の伸びは2022年度の売上高を100とし、今年度は全体116、北米120、欧州125を見込んでいます。2025年度の目標もご覧のとおりです。

医薬品精製用クロマトグラフィー装置市場への参入

- バイオ医薬品の精製装置事業を展開する米国Sepragen社に出資
- 高成長が見込まれる医薬品精製装置市場に参入。従来の事業領域（R&D、品質管理）を製造工程まで拡大



Sepragen社との協業内容

- 日本・韓国・東南アジアで販売・サービスを実施
- 顧客との更なる接点増加により、製造工程における分析ニーズを捉え、既存事業においても新たな事業機会を獲得

医薬品精製用クロマトグラフィー装置市場

- 細胞・遺伝子治療薬、抗体医薬品などバイオ医薬品の製造工程で、不純物除去に精製用クロマトグラフィー装置を使用
- 市場規模は約 1 B USD、成長率はCAGR約14%

Sepragen Corporation

（創業1985年 米国カリフォルニア州）



- 独自技術により、精製工程の自動化や設置面積の削減を実現
- 北米および、アジアではインドを中心に、大手製薬企業やCDMOへの納入実績を多数保有する



従来の研究開発・品質管理に加え、新たに製造工程まで事業領域を拡大します。
そのために、バイオ医薬品などの医薬品精製用クロマトグラフィー装置市場へ参入します。

参入に当たっては、アメリカのSepragen社に出資し、協業により当社が日本、韓国、東南アジアで販売・サービスを行い、事業を拡大していきます。

ヘルスケア領域 臨床分野展開

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

臨床ソリューション事業

- 臨床検査プラットフォームを提供
- 自社開発、社外試薬メーカーとアライアンスによりIVD試薬を拡充
- 医療機関の臨床検査部門をサポートするため、自動化とLaboratory Information Systemへの接続強化

認知症検査事業

- アルツハイマー病のアミロイドMSとアミロイドPETによる予防から検査までの幅広い事業へ展開
- 多様なマーカーにも対応した検査ソリューション提供を目指す
- TOF-PET装置は、FDAの市販許可を取得

臨床検査プラットフォーム (機器販売＋サービス)



- 北米: 大手臨床検査会社向け強化
- 中国: 中国試薬メーカーへのOEM提供

※IVD (In Vitro Diagnostics) : 体外診断

IVD試薬 (リカーリング)

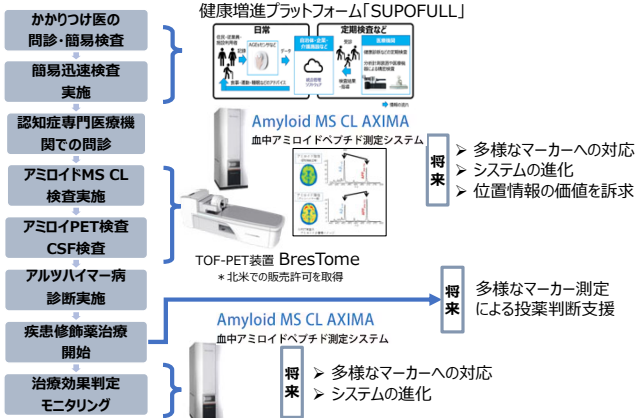
島津



- Recipe社が島津装置用IVD試薬キットを拡充

検査装置からLISへの
データ送信の自動化
ソフトウェアの接続

	(FY2022売上高を100として)	全体	北米	欧州
臨床ソリューション売上高	FY2024 (見込)	106	102	120
	FY2025 (計画)	132	150	136



次に臨床分野の取組をご説明します。

臨床ソリューション事業として、医療機関の臨床検査部門をサポートします。自動化装置や試薬は、当社でも開発しているのですが、スピードをあげてソリューションを提供するため、M&Aに加え、社外のメーカーとアライアンスを結び、自動化装置やIVD試薬をいち早く提供します。

臨床ソリューションの売上は、2022年度を100とし、2024年度は全体で106、北米で102、欧州で120を目標としています。

認知症検査事業ですが、こちらは分析と医用の機器に加えて、先だって発表した健康増進プラットフォームSUPOFULLも活用し、トータルで認知症に関するソリューションを提供します。

グリーン領域 新エネ・創エネ・蓄エネ展開

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

- 新たな需要動向への対応、関連規制設定機関（国内NEDO、海外ISOなど）との関係構築
- 製品とアプリケーション開発、社会実装の両輪で事業拡大

顧客の課題＝事業機会

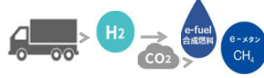
当社の取り組み

グリーン



水素貯蔵
水素脆性対策

- 物質・材料研究機構の新規ISO規格提案に協力し、試験機を使用して「高圧水素中材料試験法」：ISO 7039 を2024年7月に制定



水素の品質・製造コスト

- 水素の純度分析システムを顧客と共同で評価
- 分析時間を大幅に短縮したGCを顧客連携で製品化

水素、CO2、アンモニア分析



ガス分析計

マテリアル



電池性能向上・自動化

- 圧縮試験や電極表面状態の評価システム構築
- 各種自動検査装置を導入し、電池製造の生産ラインに拡販

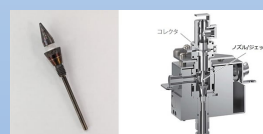
バッテリー開発、品質検査



X線検査装置

試験機

GX領域における競争力を強化
米Activated Research Company
からマイクロリアクター事業を買収



- ・ 汎用的な検出器のみで複数の温室効果ガスの一斉分析が可能
- ・ 世界最大規模の業界規格化団体である米国試験材料協会(ASTM)で分析標準化を推進

SHIMADZU

Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved. | 2025年3月期中間決算説明会

27

グリーン領域では、新エネルギー・創エネルギー・蓄エネルギーで事業を拡大します。これから成長が見込める新しい分野では、品質管理などの分析手法や評価方法が決まっているケースがあります。

そこで当社は、規格を制定するISOなどとの関係を構築し、分析手法や評価方法の標準化を進めています。例えば、水素の脆性対策で当社が協力し、新しいISOが7月に制定されました。

水素の品質管理などについては、社外の方々と共同でガスクロマトグラフによる評価方法の標準化を進めるとともに、分析時間を大幅に短縮したガスクロマトグラフを顧客と連携し、製品化を進めています。

当社は2024年2月にマイクロリアクター事業を買収しました。マイクロリアクターは汎用的な検出器で複数の温室効果ガスを一斉分析できます。マイクロリアクターを活用してGCシステムのラインナップ強化や総合的なアフターサポートの提供を進めます。

マテリアル領域では、電池性能の向上に向け、当社の豊富な製品ラインナップを活用し、お客様にトータルソリューションを提供します。

グリーン領域 環境規制対応

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

- PFAS：グローバルで需要が拡大。前処理システム、メソッドパッケージの提供
- マイクロプラスチック：分析手法の標準化の推進

PFAS



環境、食品、電機電子、半導体等、各地域の産業分野に急速に分析需要が拡大

施策

製品だけでなく、消耗品から
メソッド、レポート提供まで
トータルソリューションを提供

納入実績

- 米国
・受託分析業・大学・公的水道事業など
- 日本
・環境・食品・医薬・電機電子分野など
- 欧州
・公的水道事業、官公庁など
- 中国
・官公庁など

マイクロプラスチック



SHIMADZU

* PFAS：いくつかの例外を除き、少なくともペルフルオロメチル基（-CF₃）またはペルフルオロメチレン基（-CF₂-）を含むすべて化学物質

Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved. | 2025年3月期中間期決算説明会

28

環境規制は、世界的に課題となっているPFASとマイクロプラスチックに対するトータルソリューションを提供します。

高度専門人財の育成

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

- 顧客ニーズの深堀り、製品やサービスの革新に向けて、グローバルな事業成長に資する博士号取得と博士人財の採用・育成
 - REACHプロジェクト/社会人博士育成支援制度（SPARK）などにより博士号取得を促進
 - 持続的な成長に必要な、高度な技術的専門性や経営管理スキル・能力をもつ専門人財の獲得

社内制度

共同研究を通じた博士号取得支援
創業以来、大学、公的研究所などと共同研究を積極的に推進

- 2003年から資格取得奨励一時金制度を開始

博士号取得者 142名
うち、入社後取得者 40名

- 2024年に博士号取得のための学費補助制度 SPARKを新設

2024年4月から2名が制度活用

SPARK
Shimadzu Ph.D. scholarship for Professional Advancement through Research and Knowledge

大学との人財育成

REACH プロジェクト

【ストレート】修士卒を社員として採用後、博士後期課程で共同研究に参加させ博士号取得

【キャリア】若手研究者・技術者などの社員を事業戦略上の重要研究領域の博士課程に派遣
復社後は高度な研究能力、人的ネットワークを有する人財として活躍

大阪大学
ストレート・キャリア

長崎大学
ストレート

早稲田大学
ストレート

REACH : Recurrent & Re-skilling through Academia and Industry Collaboration for Higher Education

早稲田大学と連携

早稲田 ■ 総合知 ■ 島津
融合

新たな社会価値の共創

新たなイノベーション創出
中核人材の輩出

- 早稲田と島津が保有する総合知を融合し、新たな社会価値を共創
 - 産学連携による研究・教育と人材交流を通じて、社会課題の解決可能な人材輩出
- ⇒ 上記REACHプロジェクトに加え、「最新分析機器によるデータ取得や高度解析技術の習得させ、早稲田大学の技術職員を対象とした高度人材育成を推進」

高度専門人財の育成についてはご覧のとりの取り組みを進めています。

これにて決算説明を終了します。ご清聴ありがとうございました。



本説明資料に記載の将来の業績に関する内容は、経済情勢・為替・テクノロジーなど様々な外部変動要素により、事前見通しと大きく異なる結果となることがあります。

お問い合わせ先：(株)島津製作所
コーポレート・コミュニケーション部 IRグループ
電話：075-823-1673
E-Mail：ir@group.shimadzu.co.jp

補足資料

連結業績（7-9月）

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

	単位：億円	第2四半期(7月-9月)		前年同期比	
		FY2023	FY2024	増減額	増減率
業績	売上高	1,303	1,343	+40	+3%
	営業利益	193	193	+0	+0%
	営業利益率	14.8%	14.3%	▲0.4pt	
	経常利益	202	147	▲55	▲27%
	親会社株主に帰属する当期純利益	155	113	▲41	▲27%
為替	平均為替レート：米ドル（円）	144.67	149.43	+4.76	+3%
	ユーロ（円）	157.37	164.03	+6.66	+4%
	研究開発費	53	66	+13	+26%
	設備投資額	64	69	+5	+8%
	減価償却費	47	48	+2	+4%

為替影響額

売上高：26億円

営業利益：16億円

セグメント別損益（7-9月）

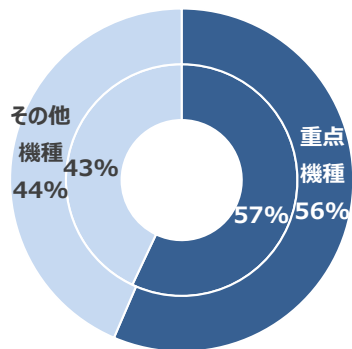
Excellence in Science
&
Best for Our Customers

単位 億円	売上高				営業利益				営業利益率		
	FY2023	FY2024	前年同期比		FY2023	FY2024	前年同期比		FY2023	FY2024	前年同期比 増減
			増減額	増減率			増減額	増減率			
計測機器	873	868	▲6	▲1%	158	140	▲18	▲11%	18.1%	16.1%	▲2.0pt
医用機器	190	186	▲4	▲2%	16	15	▲1	▲5%	8.4%	8.2%	▲0.2pt
産業機器	162	185	+22	+14%	14	26	+13	+94%	8.4%	14.3%	+5.9pt
航空機器	68	94	+25	+37%	7	11	+4	+52%	10.3%	11.5%	+1.1pt
その他	9	11	+2	+25%	2	3	+1	+45%	15.1%	19.1%	+4.0pt
調整額	-	-	-	-	▲4	▲3	-	-	-	-	-
合計	1,303	1,343	+40	+3%	193	193	+0	+0%	14.8%	14.3%	▲0.4pt

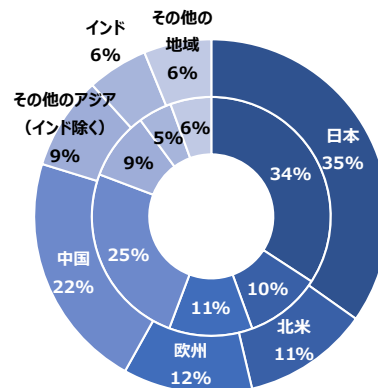
計測機器/各種売上高構成比率（4-9月）

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

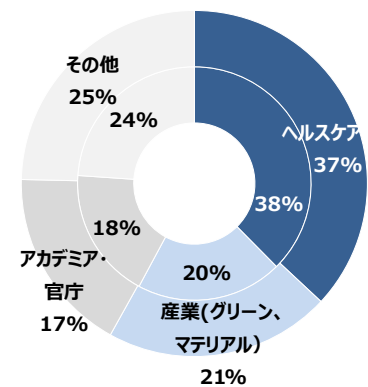
機種別



地域別



市場別



※円グラフ外側はFY2024実績、内側はFY2023実績を示す

計測機器/重点機種売上高前年同期比

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

- 重点機種 LC：日本、インドで医薬向け増加。北米で特定顧客向け増加。中国で医薬・CRO向け減少
MS：Zef社新規連結によるサービス売上増加。中国で医薬・CRO向け減少
GC：新製品が化学向けで増加。中国でアカデミア、化学向け減少

	FY2022					FY2023					FY2024	
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q
重点機種	+2%	+14%	+9%	+25%	+13%	+18%	+13%	+12%	▲2%	+10%	+3%	▲2%
全体	+1%	+15%	+15%	+20%	+13%	+16%	+10%	+6%	+2%	+7%	+3%	▲1%

※為替影響を含む

※重点機種：液体クロマトグラフ（LC）、質量分析システム（MS）、ガスクロマトグラフ（GC）

計測機器/地域別売上高

単位 億円		FY2023	FY2024	前年同期比		概況
				増減額	増減率	
日本	中間期	542	559	+17	+3%	医薬向けに液体クロマトグラフや質量分析システムが増加 ・エネルギー開発を中心に幅広い分野でガスクロマトグラフが増加 ・試験機が新素材開発向けで増加
	1Q	221	232	+11	+5%	
	2Q	321	327	+6	+2%	
海外	中間期	1,045	1,047	+2	+0%	海外売上高比率は65%
	1Q	493	506	+13	+3%	
	2Q	552	541	▲12	▲2%	
北米	中間期	163	185	+22	+13%	臨床、受託分析向けにMSが増加 ・特定顧客向けの液体クロマトグラフが回復
	1Q	72	82	+10	+13%	
	2Q	91	103	+12	+13%	
欧州	中間期	179	190	+10	+6%	臨床検査向けに液体クロマトグラフや質量分析システムが増加
	1Q	85	91	+6	+8%	
	2Q	94	98	+4	+4%	
中国	中間期	397	348	▲49	▲12%	医薬、受託分析市場の低迷により、液体クロマトグラフや質量分析システムが減少 ・前年のアカデミアに対する政府支援策の反動減
	1Q	191	181	▲9	▲5%	
	2Q	206	167	▲39	▲19%	
その他のアジア (インド除く)	中間期	146	137	▲9	▲6%	韓国で大口案件の反動で質量分析システムが減少
	1Q	69	66	▲2	▲3%	
	2Q	77	70	▲7	▲9%	
インド	中間期	72	89	+17	+23%	医薬、受託分析向けに、液体クロマトグラフが増加 ・ガスクロマトグラフが新製品効果で増加
	1Q	34	40	+7	+20%	
	2Q	39	49	+10	+25%	

計測機器/地域別売上高前年同期比

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

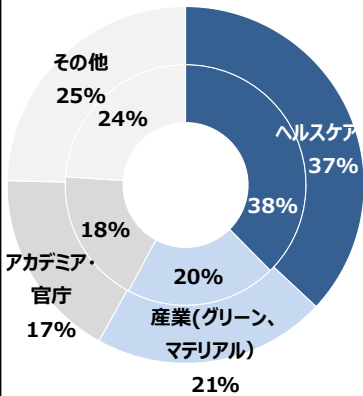
- 日本：医薬向けにLC、グリーン向けに非破壊検査が増加
- 海外：インドは医薬・CRO向け増加。中国が医薬・CxO向け、アカデミア特需の反動で大幅に減少

	FY2022					FY2023					FY2024	
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q
日本	▲3%	+4%	+15%	+8%	+7%	+5%	+10%	▲3%	+6%	+5%	+5%	+2%
北米	▲2%	+12%	+20%	+22%	+13%	+1%	+4%	▲4%	+7%	+2%	+13%	+13%
欧州	+13%	▲1%	+18%	+28%	+14%	+20%	+27%	+21%	+10%	+19%	+8%	+4%
中国	▲14%	+36%	+6%	+49%	+17%	+31%	▲4%	+6%	▲21%	+1%	▲5%	▲19%
その他のアジア	+37%	+25%	+24%	+18%	+25%	+15%	+20%	+20%	+11%	+17%	+4%	+3%
インド	+50%	+22%	+26%	+8%	+23%	+27%	+14%	+32%	+8%	+20%	+20%	+25%

計測機器/領域別売上高比率（4-9月）

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

市場別売上高構成比



市場と主な業界	構成比		売上高 前年同期比	概況
	FY2023	FY2024		
ヘルスケア ●医薬品・食品 ●医療機関 ●受託分析業	38%	37%	▲2%	・医薬は、日本、北米、インドで増加。中国減少 ・臨床（医療機関）は、北米、欧州で増加
産業 (グリーン、マテリアル) ●化学・素材 ●電機 ●自動車	20%	21%	+4%	・新素材開発向けに試験機が増加 ・新製品のGC-2050が化学向けに増加
アカデミア・官庁	18%	17%	▲5%	・日本と北米は堅調 ・欧州は欧州議会選挙後の予算執行遅れ影響を受ける ・中国は前年の政府支援策の反動

※円グラフ外側はFY2024実績、内側はFY2023実績を示す

計測機器/領域別売上高前年同期比

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

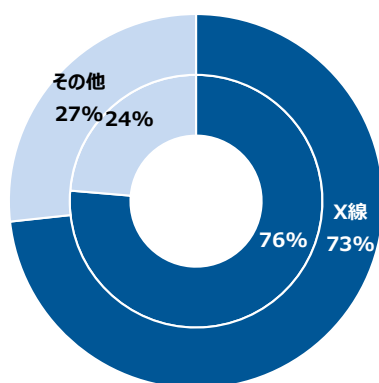
	FY2022					FY2023					FY2024	
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q
ヘルスケア	▲7%	+19%	+14%	+14%	+10%	+24%	+7%	▲4%	▲8%	+3%	+1%	▲4%
産業 (グリーン、マテリアル)	+6%	+17%	+12%	+19%	+14%	+15%	+8%	+6%	+5%	+8%	+7%	+2%
アカデミア・官庁	+20%	+17%	+8%	+30%	+19%	+20%	+25%	+23%	▲2%	+14%	▲2%	▲8%

※為替影響を含む

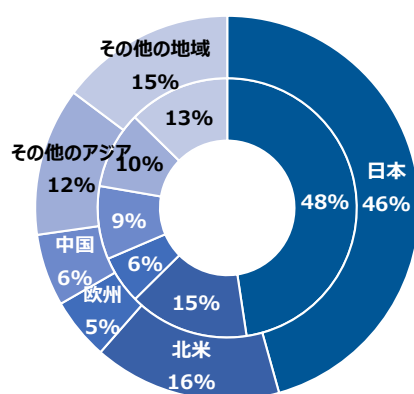
医用機器/各種売上高構成比率（4-9月）

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

機種別



地域別



※円グラフ外側はFY2024実績、内側はFY2023実績を示す

医用機器/地域別売上高

単位 億円		FY2023	FY2024	前年同期比		概況
				増減額	増減率	
日本	中間期	159	155	▲4	▲2%	・乳房・頭部専用TOF-PET “BresTome” や放射線治療装置用動体追跡システムが増加 ・市況回復の遅れによりX線TVシステムが減少
	1Q	71	70	▲1	▲1%	
	2Q	88	85	▲3	▲3%	
海外	中間期	175	185	+10	+6%	・海外売上高比率は、54%と前年同期比2pt増加
	1Q	73	85	+12	+16%	
	2Q	102	100	▲2	▲2%	
北米	中間期	50	54	+4	+8%	・一部の部材調達難が解消し、一般撮影システムが増加 ・近接型X線TVシステムが増加
	1Q	17	24	+6	+37%	
	2Q	33	30	▲3	▲8%	
欧州	中間期	20	18	▲2	▲12%	・東欧向けに血管撮影システムが増加
	1Q	9	10	+1	+11%	
	2Q	11	8	▲3	▲30%	
中国	中間期	30	21	▲10	▲32%	・市況悪化や腐敗防止強化による入札案件の遅れによりX線TVシステムや一般撮影システムが減少
	1Q	14	9	▲5	▲36%	
	2Q	17	12	▲5	▲29%	
その他の アジア	中間期	32	43	+10	+32%	・東南アジアで、X線TVシステムが増加
	1Q	16	18	+2	+15%	
	2Q	17	25	+8	+47%	

医用機器/地域別売上高前年同期比

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

- 国内：市況回復遅れの影響を受け減収
- 海外：その他のアジアで血管撮影システム増加。中国は市況回復遅れ、入札案件の遅れにより大幅減

	FY2022					FY2023					FY2024	
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q
日本	+13%	+12%	▲3%	+5%	+7%	▲24%	▲20%	+7%	▲17%	▲15%	▲1%	▲3%
北米	+4%	+52%	+21%	+28%	+26%	▲18%	+11%	▲2%	+0%	▲1%	+37%	▲8%
欧州	+5%	+61%	+2%	+33%	+22%	+16%	▲7%	+41%	+0%	+12%	+11%	▲30%
中国	+12%	▲12%	+5%	+23%	+6%	+24%	+38%	+7%	▲5%	+15%	▲36%	▲29%
その他のアジア	+10%	+16%	+7%	+19%	+13%	+20%	▲28%	+10%	+27%	+3%	+15%	+47%

※為替影響を含む

産業機器/機種別売上高前年同期比

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

- TMP : 半導体製造装置向けが大幅に増加
- 油圧 : 小型建機向けが軟調に推移
- その他機種 : 自動車用セラミック製造向け工業炉が増加

	FY2022					FY2023					FY2024	
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q
TMP	+20%	+22%	+9%	+1%	+12%	▲3%	+0%	▲0%	+15%	+3%	+27%	+7%
油圧	▲1%	+1%	+3%	+10%	+3%	+10%	+8%	▲4%	+1%	+3%	▲4%	▲4%
その他	+17%	+12%	+11%	+24%	+16%	▲2%	+2%	+10%	+11%	+6%	+29%	+42%

※為替影響を含む

※FY2024Q1より、従来「航空機器」に含まれていた海洋関連機器の業績を、「産業機器」へ移管。
FY2024およびFY2023の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた上で、FY2024/FY2023の前年同期比較においては、前年の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較。

リカーリング比率

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

- 計測 : 日本・北米・欧州で医薬向け、欧州で臨床向けメンテナンス・サービスが増加
- 医用 : 北米で代理店買収によりメンテナンス・サービスが増加
- TMP : 台湾、韓国で顧客カバー率向上により増加

計測	FY2022					FY2023					FY2024	
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q
リカーリング売上高 前年同期比	+4%	+19%	+30%	+14%	+17%	+14%	+7%	▲1%	+4%	+5%	+9%	+6%
リカーリング比率	39%	36%	40%	33%	37%	39%	35%	37%	34%	36%	41%	38%

医用	FY2022					FY2023					FY2024	
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q
リカーリング売上高 前年同期比	+8%	+11%	+7%	+6%	+8%	▲0%	▲4%	+4%	+5%	+1%	+6%	+3%
リカーリング比率	36%	32%	39%	30%	34%	42%	34%	37%	33%	36%	41%	36%

TMP	FY2022					FY2023					FY2024	
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q
リカーリング売上高 前年同期比	+8%	+3%	+12%	▲14%	+2%	▲6%	▲4%	+15%	+47%	+12%	+58%	+52%
リカーリング比率	15%	14%	16%	13%	15%	15%	14%	18%	17%	16%	19%	19%

※為替影響を含む

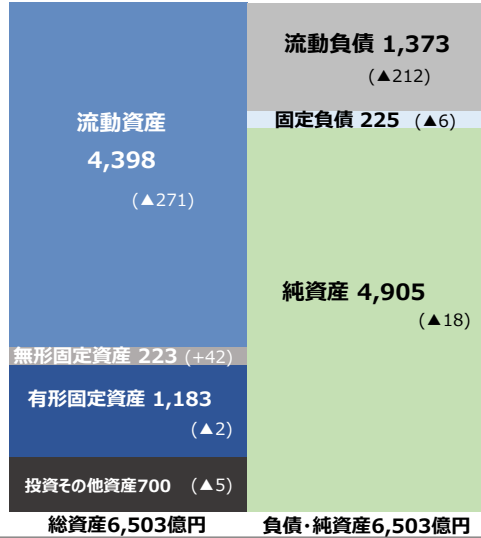
連結財政状態（中間連結貸借対照表）

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

■ 2024年9月末総資産 6,503億円（2024年3月末から▲236億円）

■ 自己資本比率は75.4%（前期比末+2.3pt）

（億円）
増減は2024年
3月末対比



資産

流動資産 ▲271億円

- 売上債権 ▲190億円
- 現金 ▲82億円（配当金支払い、Zef社買収など）

無形固定資産 +42億円

- のれん増加 +42億円（Zef社新規連結など）

負債・純資産

流動負債 ▲212億円

- 支払債務 ▲126億円

純資産 ▲18億円

- 自己株式の取得 ▲33億円

自己資本比率 75.4% (+2.3pt)